

平和ってなんだろう

長崎達慎

ぼくは、今回この広島市平和記念式典児童はけん事業に参加させていただいて、戦争の恐しさや、平和について、たくさんのお話を自分の目で見、肌で感じ、学ぶことができました。そのなかでも二つの印象に残ったことがあります。

一つ目は、平和資料館です。戦争に関するたくさん資料や写真、遺品がありました。

広島原爆が落とされる前の写真と、落とされた後の写真を見てとてもおどろきました。あんなにぎやかだった広島が、一瞬で焼け野原になりました。14万人もの人が亡くなりました。生き残った人も放射能の被害を受け、その苦しみは、今なお続いています。痛くて熱くて苦しくて。こんなに惨いことは、もう二度とくり返してはならないと強く思います。広島原爆に使われた「リトル・ボーイ」には、ウランが50kgつまれていました。その

うち、実際に爆発したのは、わずか800g。ウラン全部が、核分裂を起こしていたとしたら、被害はこの625倍だったかもしれません。知らなかった事実を目のあたりにしてぼくは、とてもショックでした。今は、この原爆の何百倍もする水素爆弾が開発されています。世界には、このような原爆を持った国が何々国もある。そして、その爆弾全部を使えば、地球を何回も破壊できるのです。こんな過ちを犯さないためには、過去にあった事をみんなが

が知り、広島に足を運んでみたりするのが大事だと思います。

二つ目は、平和記念式典です。式典には、世界各国から五万人もの人が集まり、平和を願いました。8時15分、みんなの心が一つになりました。

広島市長さんが平和宣言で、こう言いました。「みなさん、あなたや大切な人がそこに行ったらと想像して聞いてください。」ぼくはそれを考えて本当に怖くなりました。でも実

際に広島にいた方は、何倍も怖くて痛くて悲しいと思います。重要なのは、その苦しみを想像し続け、考えて、みんなと話し合っていて、平和な未来を作っていていくことだと思います。ぼくは、広島に行く前は、自分の周りのみんなと笑い合えたり、楽しく遊んだりすることが平和だと思っていました。それは、もちろん人そうなのですが、実際に行ってみて、もう少し大きな世界なんじゃないかと思いました。それは、国もこえて大人も子どもも、手を取

りあって信じあうことです。

ぼく達は、この事業で学んだ事を次の世代につないでいく人のメッセージとしてがんばっていきたいです。

最後に、このとてもすてきな事業に参加させていただいて本当にありがとうございます。ありがとうございました。